

「養身有為」

丈夫な体をつくり、常に勉学を怠らず、
世のため人のために役立つ、実行力のある人になろう



「子どもたちの生命を守ること・・・」 ～防災の9月に考えたこと～

熊本地震から数年しか経過していない中、先週の6日、北海道で大地震が発生しました。近年、最強と言われる台風が去った後だけに、甚大な被害に見舞われることになりました。

地震に限らず、災害・事故はいつ、どこで、どのように起きるかは、予想付かないのが現実であります。

そんな中、子どもたちの生命を守るということは、当然、何より優先して行われなければいけないことです。



学校においては、登下校の交通安全、不審者対応、火災や地震、豪雨などの災害への備え、健康面への注意、学校施設の安全点検整備、校内での子どもの動線を想定した安全確保など、さまざまな観点で子どもたちの生命を脅かす危険性から、子どもたちを守る対策を立てています。学校で実施する火災等の避難訓練を例にすると、出火の場所を変えたり、様々な場面を想定したりして訓練を重ね、どのような状況であっても迅速かつ適切な対応が取れるようにしています。他には、廊下を移動する時、右側を静かに歩くとか、外からの不審者の対応のため門扉を閉めておくとか、最近では、猛暑の日は、熱中症予防のために休み時間は室内で過ごさせる等・・・です。

しかし、残念ながら、どのような対策を立てていても、どのような訓練を重ねていても、最近の気象災害や事件や事故は、私たちの想定をはるかに超えたものになってきているのが現状です。このようなことを心配していた時、ある専門家が書いていた文章が目にとまりました。その対策は、「日常生活で行っていることを、真摯に整然と取り組むことを積み重ねていくということが大切」という、特別なことではない、ごくありふれた文章でした。

日常のこと（当たり前のことをしっかり行うこと）・・・校内放送が始まったら静かにして耳を傾けること。全校朝会などでの体育館への入退場を静かに速やかに行うこと。

そして何より、学校に関係するすべての人たちの厚い信頼関係を築くこと等、本校が良き伝統として守り維持している点を、これからも継続していくことが大切であるということ、あらためて感じることができました。

今後も、災害等から身を守るために、訓練や学習も当然に必要なことですが、その上で、毎日の生活の中に定着している集団生活上の良き習慣、互いの信頼関係等を意味付けて、地道に続けていこうと考えています。

「今月の名言&校長先生メッセージ・・・」

本稿の最後（下）と校長室の入口（右）に、私から子どもたちへのエールを送る意味でメッセージを掲載しています。

これから長い人生・・・どこかで思い出してくれたらと思っています。

今月の名言

つづ

むずか

つづ

じしん

続けることは難しいが続けたことは自信につながる

